



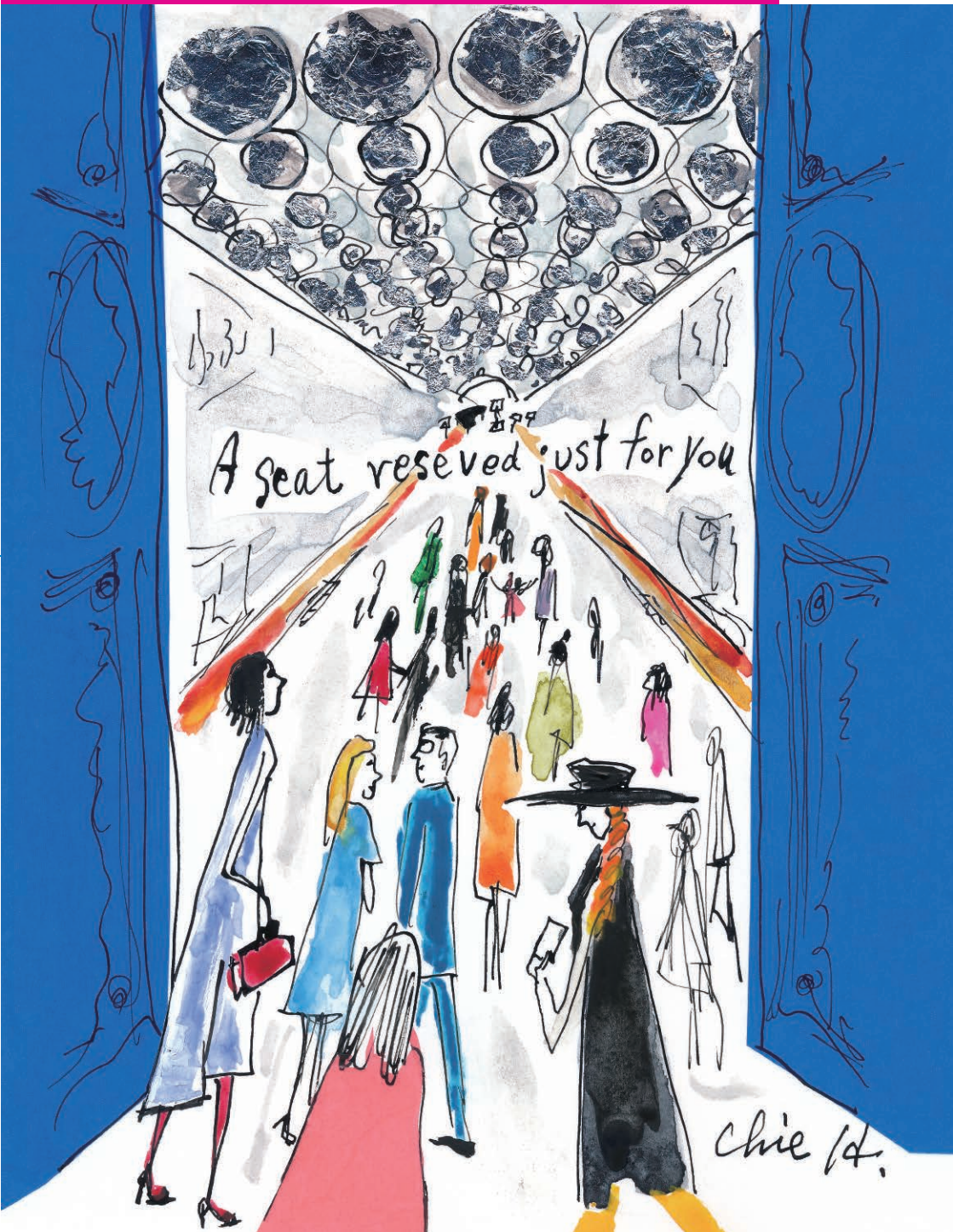
TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

2022シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団

2022

7





©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
オーケストラの響きが満ちる場所でのかけがえのないひとときを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten 25
YEARS

マルハニ

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第148回東京オペラシティ定期シリーズ

7月7日(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第972回オーチャード定期演奏会

7月10日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第973回サントリー定期シリーズ

7月12日(火)19:00開演 サントリーホール

7/7

7/10

7/12

指揮：出口大地

ヴァイオリン：木嶋真優

コンサートマスター：三浦章宏

ハチャトゥリアン：バレエ音楽『ガイーヌ』より(約16分)

アイシェの目覚めと踊り 山岳民族の踊り ガイーヌのアダージョ
剣の舞 レズギンカ

ハチャトゥリアン：ヴァイオリン協奏曲 二短調(約35分)

- I. アレグロ・コン・フェルメツツァ
- II. アンダンテ・ソステヌート
- III. アレグロ・ヴィヴァーチェ

ー 休憩 (約15分) ー

ハチャトゥリアン：交響曲第2番 ホ短調『鐘』(約50分)

- I. アンダンテ・マエストーソ II. アレグロ・リゾルト III. アンダンテ・ソステヌート
- IV. アンダンテ・モッソーアレグロ・ソステヌート、マエストーソ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(7/10)

後援：駐日アルメニア共和国大使館 日本・アルメニア外交関係樹立30周年記念



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※開演間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※終演後、ロビーの混雑を避けるため「時差退場」のお願いをしております。ご協力をお願いいたします。

出演者プロフィール



©hiro.pberg_berlin

指揮

出口大地

Daichi Deguchi, conductor

第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞。これまでにコンツェルトハウス・ベルリン管弦楽団、アルメニア国立交響楽団、カルロヴィ・ヴァリ交響楽団など数多くのオーケストラを指揮。2021年にはベルリン放送交響楽団の公演にてヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務めた。

大阪府生まれ。関西学院大学法学部卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻（指揮）卒業。2022年ハンスアイスラー音楽大学ベルリンオーケストラ指揮科修士課程修了予定。指揮を広上淳一、田代俊文、三河正典、下野竜也、クリスティアン・エーヴァルト、オペラ指揮をハンス・ディーター・パウムの各氏に師事。またネーメ、パーヴォ、クリスティアン・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、ヨハネス・シュレーフリ、井上道義、沼尻竜典各氏らのマスタークラスにオーディションを経て招待され薫陶を受ける。



©KINYA OTA (MILD)

ヴァイオリン

木嶋真優

Mayu Kishima, violin

2016年第1回上海アイザック・スターン国際ヴァイオリン・コンクールにて優勝。

2000年第8回ヴェニツァフスキ国際ヴァイオリン・コンクール・ジュニア部門にて日本人として最年少で最高位を受賞。2011年ケルン国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で優勝、あわせてその優れた音楽的解釈に対しDavid Garrett賞も受賞した。2012年春にはケルン音楽大学を首席で卒業。2015年秋には同大学院を満場一致の首席で卒業し、ドイツの国家演奏家資格を取得、2016年秋には神戸市より神戸市文化奨励賞を授与された。

レコーディングは、ウラディーミル・アシュケナージから強い推薦を受け、「アシュケナージ&NHK交響楽団」の“ツィガーズ”に参加。2020年12月にはキングレコードより新譜CD「seasons」をリリース。

現在日本とヨーロッパに拠点を置き、リサイタル、オーケストラとの共演、室内楽など幅広く活動を行なっている。2002年度文化庁海外派遣研修員。

使用楽器はNPO法人 イエロー・エンジェル、宗次コレクションより特別に貸与された Antonio Stradivari 1699 "Walner"。

楽曲紹介

解説＝増田良介

アラム・ハチャトゥリアン(1903-1978)は、アルメニア人としての民族意識を強くもっていた作曲家だ。しかし彼が生まれたのは実はアルメニアではなく、現在ジョージアの首都となっている(当時はロシア帝国の一部)トビリシの郊外だった。幼いハチャトゥリアンは、コーカサスのさまざまな地域出身の人々がいる場所で、両親の歌うアルメニア民謡に加えて、ジョージアやアゼルバイジャンなど多様な地域の音楽に触れながら育ったという。本日の演奏会では、そんなハチャトゥリアンの力強い傑作3曲を聞くことができる。なお、『ガイーヌ』とヴァイオリン協奏曲、そして交響曲第2番というプログラムは、ハチャトゥリアンが1963年来日した際に指揮した演奏会とほぼ同じだ。

ハチャトゥリアン バレエ音楽『ガイーヌ』より

バレエ『ガイーヌ(ガヤネー)』は、1939年から1942年10月にかけて作曲され、12月に初演された。物語は、勇気ある女性ガヤネーが、コルホーズ(集団農場)への放火を企む怠惰な夫ギコを告発するという内容で、当時はスターリン時代、しかも戦時中ということもあり、脚本は、芸術的というよりも政治的なものだった。ロマンス的要素を強めた1958年の改訂版(ボリショイ版)もあまり出来がよいとは言えず、現在、バレエそのものが上演されることは少ない。しかし、コーカサスの民族音楽の和声やリズムをふんだんに用いた音楽は初演当時から非常に好評で、中でも「剣の舞」は世界的な大ヒット曲となった。本日は、その中から5曲が演奏される。

アイシェの目覚めと踊り

アイシェはクルド人の若い娘。ヴィオラのフラジオレット(弦に軽く触れて非常に高い音を出す奏法)を背景にピッコロがソロを吹く「目覚め」に、魅惑的な「踊り」が続く。

山岳民族の踊り

決然とした導入に続き、ハチャトゥリアンの真骨頂とも言える荒々しいリズムが続く。クライマックスでは、突如、8分の7拍子という特殊な拍子が現れる。

ガイーヌのアダージョ

美しい主題が、まずはチェロ、続いて第1及び第2ヴァイオリンにより、伴奏なしで歌われる。あとは、曲の終わり近くで、他の弦楽器やハーブ、ティンパニが少し出てくるだけだ。

剣の舞

誰もが知る名曲だが、実はこの曲、初演の直前にもう1曲舞曲が必要ということになり、ハチャトゥリアンが指で机を叩いてリズムを探しながら、わずか一夜で作曲されたというエピソードがある。

レズギンカ

スネアドラムの激しいリズムが全曲を貫く活発な舞曲。イ長調の主部に対し、中間部は3度高いハ長調で書かれており、いっそう熱を帯びる。

[作曲年代] 1939～42年 [初演] 1942年12月9日 ベルミ、キーロフ・バレエ団による
[楽器編成] ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、アルト・サクソフォン、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、アルト・サクソフォン、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、太太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム、グロッケンシュピール、シロフォン)、弦楽5部

ハチャトゥリアン ヴァイオリン協奏曲 二短調

1940年当時のハチャトゥリアンは、まもなく息子が生まれようというところで、私生活も充実していたが、創作力においても絶頂期にあり、頭には楽譜に書くのが追いつかないほどの音楽があふれていたという。この協奏曲もわずか2ヶ月で作曲された。作曲時から協力していたヴァイオリニスト、ダヴィード・オイストラフ(1908-1974)による初演は大成功で、やがてこの曲は、ハチャトゥリアンの代表作として世界中で演奏されるようになった。現在ではヴァイオリンだけでなく、ジャン・ピエール・ランバル(1922-2000)の編曲により、フルート協奏曲としても親しまれている。

第1楽章 アレグロ・コン・フェルメッツァ ニ短調 4分の4拍子 ソナタ形式
強烈な序奏に続き、独奏ヴァイオリンが力強い第1主題を弾く。第2主題はややノスタルジックだ。再現部の前にはカデンツァが入る。通常、作曲者自身によるものか、オイストラフの書いたもののどちらかが演奏される。

第2楽章 アンダンテ・ソステヌート イ短調 4分の3拍子 三部形式

序奏に続いて、独奏ヴァイオリンがけだるく哀愁を帯びた主題を歌う。中間部は、管弦楽のみの部分に続き、独奏ヴァイオリンが「ソラファソーミ | ファソミファーレ」という音型を繰り返す、民族的色彩の濃い音楽だ。

第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ ニ長調 8分の3拍子 自由なロンド形式

エネルギーあふれるフィナーレ。途中には第1楽章第2主題を変形した旋律も登場して。全曲の統一が図られている。

[作曲年代] 1940年 [初演] 1940年11月16日 モスクワ、ソヴィエト音楽祭にてアレクサンドル・ガウク指揮、ダヴィード・オイストラフのヴァイオリン独奏による

[楽器編成] ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（タンブリン、小太鼓、大太鼓、シンバル）、ハープ、弦楽5部、独奏ヴァイオリン

ハチャトゥリアン

交響曲第2番 ホ短調『鐘』

ハチャトゥリアンは、3曲の交響曲を作曲した。第二次世界大戦中のソ連では、ショスタコーヴィチの交響曲第7番『レニングラード』をはじめ、戦争に呼応した交響曲がたくさん書かれたが、ハチャトゥリアンの第2番もそのひとつだ。この作曲家としては異例なほど悲痛な感情が全曲を覆う作品で、演奏される機会はそう多くないが、彼の傑作のひとつとして名高い。

この曲は、まず1943年に一旦完成し、初演も行われたが、翌年、中間楽章の順序を入れ替えるなどの改訂が行われた。さらに、1960年代にも少し手を入れられて、現在の形となった。

曲は、第2楽章（初稿では第3楽章）にスケルツォ的な楽章をもつ4楽章構成だ。副題の『鐘』は、全曲を通じて鐘が印象的に使われていることから、ある音楽評論家が命名したもので、作曲者もこれを了承している。

第1楽章 アンダンテ・マエストーソ

ソナタ形式。冒頭に「ソ♯ - ファ」そして「ファ - レ」という、短3度を下降する音程が現れるが、これはこの曲全体を統一する役割を果たしている重要な音程だ。

第2楽章 アレグロ・リゾルト

三部形式のスケルツォ。楽章を通じてせわしく刻まれるリズムが特徴的だ。クラリネットのソロをきっかけに中間部に入るが、ここでは民族的色彩の濃い主題を弦が歌う。

第3楽章 アンダンテ・ソステヌート

この楽章は、作曲者によると、怒りのレクイエムであるという。主要主題は、作曲者が幼い頃、母親の歌っていたアルメニア民謡「狩人の歌」から取られている。グレゴリオ聖歌『怒りの日』もあらわれる。

第4楽章 アンダンテ・モッソーアレグロ・ソステヌート、マエストーソ

ファンファーレで始まる序奏に続き、ヴァイオリンが三連符の連続を弾き始めると主部に入り、希望を感じさせるコラル風の主要主題が現れる。大詰めでは、全曲冒頭の短3度音型の音型が再び現れる。

〔作曲年代〕1942～43年 〔初演〕1943年12月30日 モスクワ音楽院大ホールにてボリス・ハイキン指揮ソヴィエト国立交響樂團による

〔楽器編成〕フルート3（3番はピッコロ持ち替え）、オーボエ2、イングリッシュホルン、E♭クラリネット、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（小太鼓、ウッドブロック、シンバル、チューブラーベル、グロッケンシュピール、シロフォン）、ハープ2、ピアノ、弦楽5部

ますだりょうすけ／音楽評論家。ショスタコーヴィチをはじめとするロシア・ソ連音楽、マーラーなどの後期ロマン派音楽を中心に、『レコード芸術』『CDジャーナル』誌、京都市交響樂團、東京都交響樂團などの演奏会プログラム、各社ライナーノート等に執筆している。



[特別記事]

アルメニア探訪

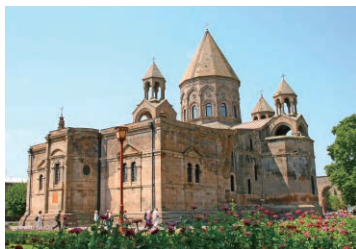
～アルメニア・日本外交関係樹立30周年



2022年はアルメニア共和国と日本が外交関係を樹立して30年の記念の年にあたります。作曲家アラム・ハチャトゥリアンは故郷アルメニアの民族音楽を素地に数多くの作品を生み出し、国民的な作曲家として敬愛を集めました。今回の定期は、そのハチャトゥリアンの生誕100年を記念して創設され、国をあげて開催されている「ハチャトゥリアン国際コンクール」指揮部門2021年の覇者、出口大地氏によるオール・ハチャトゥリアン・プログラム。ここでは、そんなハチャトゥリアンの故郷アルメニアをご紹介します。

アルメニアとアルメニア人

アルメニア人の故郷は黒海とカスピ海に挟まれた地域で、古代にはアルメニア諸王国が栄えた。また、アルメニアは4世紀初頭に世界で初めてキリスト教を国教化したとされる。アルメニア語はインド・ヨーロッパ語族の中で独自の一語派を成し、5世紀初頭にメスロブ・マシュトツ(362-440)によって考案されたアルメニア文字は改良を重ねながら現在も使用されている。また、古典アルメニア語を典礼言語とするアルメニア使徒教会は、非カルクドン派の宗派として独自の発展を遂げた。



4世紀初頭にキリスト教が世界で初めて国教とされた際に建てられた世界最古の教会、エチミアジン大聖堂

(駐日アルメニア共和国大使館提供)

古来から商業分野で優れた能力を発揮してきたアルメニア人たちは、商機を求めて世界各地に移住したため、国外にも商人の居留地を起源とする共同体が形成された。

11世紀に古代アルメニア王国がビザンツ帝国に滅ぼされた後、アルメニアの領域はオスマン帝国やサファヴィー朝などの勢力に支配されることとなった。1829年のトルコマンチャイ条約によって、現在のアルメニア共和国の領域に相当する東アルメニアがカージャール朝からロシア帝国に割譲されて以降、主なアルメニア人居住地域は、ロシア帝国とオスマン帝国によって東西に二分されることになった。オスマン帝国末期にはアルメニア人ジェノサイドが発生し、多くの者が犠牲となったほか、生存者たちは中東や欧米に移住した。このことから、現在アルメニア国外に暮らすアルメニア人の中には、この事件の生存者の子孫が多い。なお、ロシア領であった東アルメニアは、ロシア



アルメニアの歴史的シンボル、アララト山

©Eva Mencnerova Dreamstime.com

アルメニアのシンボルの一つとして国章に配されている。また、この山の名を冠したアルメニア産ブランド「アララト」は世界的に有名で、ウィンストン・チャーチルが愛飲したことで知られる。なお、歴史的な要因により、アララト山は現在トルコ領内にある。

日本のアルメニアとの関わり

アルメニアは日本から心理的にも地理的にも遠く離れているが、20世紀以降、関係も生まれている。戦前に横浜に在住し、商社を営んでいたアルメニア人女性のディアナ・アブガルは、当時のアルメニア第一共和国の名誉領事として、ジェノサイドを逃れてコーカサスからシベリア鉄道経由で日本に到着したアルメニア人難民の欧米への移住を支援した。また、実業家の渋沢栄一もアルメニア人難民支援のために基金を設立した。さらに、日本で一般的なメロンパンは、帝国ホテルが満州から招いたアルメニア人パン職人のイヴァン・サゴヤンによって考案されたと言われている。

ハチャトゥリアン国際コンクールとアラム・ハチャトゥリアンの家、博物館

今回、指揮を担当する出口大地氏が昨年度に優勝を果たしたハチャトゥリアン国際コンクールは、ハチャトゥリアン生誕100周年を記念して2003年に創設された。作曲家の誕生日である毎年6月6日に合わせてエレヴァンで開催され、指揮のほかピアノ・チェロ・ヴァイオリン（過去には声楽も）の計4部門で競われている。

また、エレヴァンには作曲家ハチャトゥリアンに関係する博物館も存在する。博物館の建物はかつてハチャトゥリアンの長兄一家が暮らしていたもので、ハチャトゥリアン自身もエレヴァン訪問の際にはしばしば滞在していたという。作曲家の死後の1982年に博物館として開館し、彼にまつわる楽器や譜面、書簡その他が展示されている。また、併設されているホールでは、作曲家に関連する様々な催し物が開かれて



ハチャトゥリアンの銅像が立つ首都エレヴァンのオペラハウス前

©Natalia Volkova Dreamstime.com

The 148th Tokyo Opera City Subscription Concert
Thu. July 7, 2022, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 972nd Orchard Hall Subscription Concert
Sun. July 10, 2022, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 973rd Suntory Subscription Concert
Tue. July 12, 2022, 19:00 at Suntory Hall

Daichi Deguchi, conductor

Mayu Kishima, violin

Akihiro Miura, concertmaster

Aram Khachaturian:

Experts from the ballet "Gayane" (ca. 16 min)

Aishe's Awakening and Dance Mountaineer's Dance Gayaneh's Adagio
 Sabre dance Lezginka

Aram Khachaturian:

Violin Concerto in D minor (ca. 35 min)

I. Allegro con fermezza II. Andante sostenuto III. Allegro vivace

— intermission (ca. 15 min) —

Aram Khachaturian:

Symphony No. 2 in E minor "The Bell" (ca. 50 min)

I. Andante maestoso II. Allegro risoluto III. Andante sostenuto
 IV. Andante mosso - Allegro sostenuto, maestoso

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
 Japan Arts Council
 In Association with **Bunkamura** (July 10)

Supported by Embassy of the Republic of Armenia to Japan
 The 30th Anniversary of the Establishment of the Diplomatic Relations between the
 Republic of Armenia and Japan



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- In order to avoid crowding when exiting the hall, we ask that you exit the hall by staggered times in cooperation with guidance that staff will provide at the venue at the end of the concert.

Artist Profile



©hiro.pberg_berlin

Daichi Deguchi,
conductor

The first-ever Japanese winner of the conducting division of the 17th Khachaturian International Competition, Maestro Daichi Deguchi also won the highest prize and the special orchestra prize at the Koussevitzky Competition. He has conducted numerous orchestras including the Konzerthausorchester Berlin, the Armenian State Orchestra, and the Karlovy Vary Symphony Orchestra. In 2021 Mo. Deguchi served as assistant to Vladimir Jurowski at a performance by the Berlin Radio Symphony Orchestra.

Originally from Osaka, Japan, he graduated from Kwansei Gakuin University with a degree in Law, and subsequently graduated from Tokyo College of Music with a degree in Composition and Conducting (Specialized in Conducting). He is scheduled to complete a master's degree in Orchestra Conducting at the Hanns Eisler University of Music Berlin in 2022. He studied conducting under Junichi Hirokami, Toshifumi Tashiro, Masanori Mikawa, Tatsuya Shiono, and Christian Ewald, and opera conducting under Hans-Dieter Baum. He was also invited by audition to master classes by Neeme, Paavo, and Kristjan Järvi, Donald Runnicles, Johannes Schlaefli, Michiyoshi Inoue, and Ryusuke Numajiri.

7
July

10
July

12
July

7/7

7/10

7/12



©KINYA OTA (MILD)

Mayu Kishima,
violin

After becoming the youngest ever Japanese top prizewinner in the Junior Division of the 8th Wieniawski International Competition in 2000, Mayu Kishima also won other competitions including the 1st Shanghai Isaac Stern International Violin Competition in 2016. Graduated from the Hochschule für Musik and the graduate school of the Hochschule für Musik in Cologne, Mayu Kishima received Germany's national qualification for musicians. She received Kobe City Cultural Encouragement Award from Kobe City in 2016. Based in both Japan and Europe, Mayu Kishima takes part in extensive activities as well as performing recitals and concerts with orchestras.

Mayu Kishima uses The Antonio Stradivari 1699 "Walner" violin has been specially loaned to her by the NPO Yellow Angel and the Munetsugu Collection.

Program Notes

Text by Robert Markow

Aram Khachaturian remains one of the most brilliant composers to come out of the former Soviet Union. So highly regarded was Khachaturian in Russia that his obituary was written by none other than Leonid Brezhnev, General Secretary of the Communist Party at the time. One of the pallbearers at the funeral was the Premier of the Soviet Union, Aleksey Kosygin.

Tonight's concert presents two of Khachaturian's best-known compositions, plus a work seldom heard outside of Russia, the Second Symphony, a work glowing with patriotic fervor, folk influences of Armenia, and dazzling orchestration.

The composer described his native Tbilisi as "a city rich in a music tradition of its own. From boyhood I was steeped in an atmosphere of folk music. As far back as I can remember, there were always Armenian, Georgian and Azerbaijani folk tunes played and sung ... The original substance of these impressions, formed in an early childhood in close communion with the people, has always remained the natural soil nourishing my work." With these words in mind, it is not surprising to find that most of Khachaturian's music is thoroughly steeped in modal melodies, driving rhythms, exhilarating dance patterns and instrumental combinations reminiscent of folk orchestras of his Armenian heritage. He lies buried in Yerevan, Armenia.

Khachaturian: Experts from the ballet "Gayane"

Gayane (also variously spelled Gayané or Gayaneh or Gayne) was first seen on December 9, 1942 in Molotov (today Perm) in the course of a visit of the Kirov Theater from Leningrad. Khachaturian revised the score twice. The original story revolved around a patriotic Armenian peasant girl Gayane and her brutal husband Giko. Giko turns traitor, nearly kills Gayane and their daughter, and is eventually destroyed. Gayane is saved by Kazakov, Commander of a Red Army patrol.

From the full-length, four-act complete ballet, we hear at this concert

7
July

10
July

12
July

a suite of five excerpts, four from the First Suite, and one from the Third (the “Sabre Dance”), all compiled by the composer shortly after the ballet’s premiere.

Ayesha is a Kurdish girl in love with Gayane’s brother Armen. Her alluring dance is set to the waltz rhythm. There is no mistaking the kind of men the Mountaineers are: rough, tough, easily incited to anger. Heavy use of percussion and trombones lends an element of menace to their music. “Gayane’s Adagio” is a quiet, hauntingly austere number for strings alone. No *Gayane* Suite would be complete without that blazing, two-and-a-half-minute “Sabre Dance,” Khachaturian’s single best-known piece. The composer dashed it off in a single evening and was greatly surprised by the enormous popularity it achieved. It is now commonly used by figure skaters, at circus performances, and in numerous films, animated films, TV series, video games and commercials. It exists in almost countless arrangements, including for concert band, several for solo piano, and one for violin and piano by Jascha Heifetz. The suite heard at this concert ends with the fiery, powerfully rhythmic “Lezghinka,” a folk dance originating among the Lezghin people of the Caucasus.

Aram Khachaturian: Born in Tbilisi (formerly Tiflis), Georgia, June 6, 1903
Died in Moscow, May 1, 1978

Work composed: 1939-42 **World premiere:** December 9, 1942 in Perm performed by the Kirov Ballet

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, alto saxophone, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, side drums, bass drum, triangle, cymbals, tam-tam, glockenspiel, xylophone), harp, strings

Khachaturian: Violin Concerto in D minor

Khachaturian’s Violin Concerto has been described as “a virtuoso’s dream,” and justly so. It bristles with fearsome difficulties, incorporating a good many of the soloist’s repertory of special effects and techniques: pyrotechnical displays of scales and arpeggios, pizzicato (plucking the strings), *spiccato* (bouncing the bow on the strings), double stops (playing two notes simultaneously) and quadruple stops as a grand gesture at the

conclusion. But the lyrical element is not overlooked, and one can find lush, romantic themes in all three movements. Two of the three themes in the opening movement are of this nature, and Khachaturian thought highly enough of one of them to bring it back in the final movement as well. Grigory Shneerson, in his study of Khachaturian, observes that the central movement suggests the improvisations of Armenian *ashugs* (bards). The brilliant finale adheres to the traditional rondo form with a memorable principal theme and enough virtuoso high-jinks to keep a soloist on his or her toes and listeners on the edge of their seats.

David Oistrakh, the concerto's dedicatee, gave the world premiere in Moscow on November 16, 1940, Alexander Gauk conducting. In 1968, Jean-Pierre Rampal, with the composer's permission, transcribed the solo part for flute, in which form it has become nearly as popular with flutists as the original has with violinists. The concerto won Khachaturian the Stalin Prize in 1941.

Work composed: 1940 **World premiere:** November 16, 1940 at the Soviet Music Festival in Moscow conducted by Aleksandr Gauk with David Oistrakh as soloist

Instrumentation: piccolo, 2 flutes, 2 oboes, English horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cymbals, tam-tam, glockenspiel, xylophone), harp, strings, solo violin

7
July10
July12
July

Khachaturian: Symphony No. 2 in E minor "The Bell"

Like Shostakovich's Seventh and Eighth Symphonies, Khachaturian's Second is a wartime symphony directly inspired by and descriptive of the tremendous suffering the Russian people endured during the Great Patriotic War (as they called World War II). The work takes its subtitle, "The Bell," from the tocsin (alarm bell) heard in the powerful opening moments and several times later in the symphony. A tocsin is traditionally sounded to warn of approaching invaders, but to Khachaturian it also represented "a call for vigilance and for struggle against the forces of evil." The world premiere of the Second Symphony was given by the USSR State Symphony Orchestra in Moscow on December 30, 1943, with Boris Khaykin conducting.

In his Second Symphony, Khachaturian successfully combined elements of native Armenian folk music, forms derived from the western symphonic tradition, and program music. Its opening is one of the most arresting in all music – an assault on the ears that biographer Victor Yuzefovich likens to a burst of molten lava, while “the sounds of the tocsin draw the audience into the suffering it expresses.” Following the introductory material, which contains the seeds of what is to follow, violas quietly announce the movement’s main theme. This rises to a climax, at which point the full orchestra hammers out a furiously driving rhythmic pattern that will serve as the basis of the second theme (solo bassoon) and that will accompany most of the development section. Piano, xylophone, triangle, piccolo and trumpets contribute to the bright, at times almost brittle sound that characterizes much of Khachaturian’s music.

The second movement vividly evokes the exotic sounds, swirling motion and colorful costumes of Armenian dance music.

The third movement consists of two main elements: a solemn, lyrical theme derived from an Armenian lament accompanied by the incessant, almost hypnotic rhythm of a funeral march, and the thirteenth-century Gregorian chant for the dead, the “Dies irae.” One, then the other, is heard, and at one point the two are combined. The movement rises slowly, inexorably, to a massive climax, then expires to the ponderous, quiet tread of the funeral march.

The finale is ushered in with brass fanfares. Brass continue to dominate the soundscape in the movement’s main theme, a chorale first heard in the horns and trombones. The chorale-theme returns in various colors in the course of the movement, always proudly and denoting a sense of victory. “This is Khachaturian at his best,” writes Yuzefovich, “a master of sweeping orchestral frescos.” Near the end, the main theme from the first movement returns as a countersubject to the finale’s main theme, the tocsin is sounded again as a reminder of the eternal vigilance needed to ward off the forces of evil, and the symphony ends in a blaze of jubilation.

Khachaturian revised the symphony several times. The version we hear at this concert was made in 1969, in which the original order of the two inner movements is reversed, the brass is strengthened in the finale, and various other details have been adjusted.

Work composed: 1942-43 **World premiere:** December 30, 1943 at the Moscow Conservatory by the USSR State Symphony Orchestra conducted by Boris Khaykin

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, E♭clarinet, 2 B-flat clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (side drum, bass drum, cymbals, wood block, tubular bells, Glockenspiel, xylophone), 2 harps, piano, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

7
July

10
July

12
July

2022 Season Subscription Concerts Lineup

September		
Thu. Sep 15, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall	Liszt/Battistoni: <i>Années de pèlerinage, Deuxième année - Italie</i> , S. 161: No. 7, <i>Après une lecture du Dante</i> (After a Reading of Dante from Years of Pilgrimage "Second Year: Italy" S. 161 No. 7) Mahler: <i>Symphony No. 5</i>	
Fri. Sep 16, 19:00 at Suntory Hall		
Mon./Holiday Sep 19, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall		
conductor: Andrea Battistoni, Chief Conductor		
Single tickets available		
October		
Thu. Oct 20, 19:00 at Suntory Hall	Verdi: Opera " <i>Falstaff</i> " in concert style with Japanese supertitles Libretto by Arrigo Boito from William Shakespeare's " <i>The Merry Wives of Windsor</i> "	
Fri. Oct 21, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall		
Sun. Oct 23, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall		
conductor: Myung-Whun Chung, Honorary Music Director		
Single tickets available		

Inquiries about tickets > <https://www.tpo.or.jp/en/>

Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with a thermography camera and so on.



In order to avoid crowding when entering and exiting the hall, we ask that you enter and exit the hall by staggered times. Thank you for your cooperation.

If the attendee who comes to the venue is different from the purchaser of the ticket, we request to fill out the attendee's contact information in the ticket stub. The contact information will be kept under lock and incinerated one month after the performance.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Please cooperate with staggered entry and exit.

東京フィルだより — 2022年シーズン今後の定期演奏会

9月の定期演奏会

第149回東京オペラシティ定期シリーズ

9月15日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第974回サントリー定期シリーズ

9月16日(金) 19:00 サントリーホール

第975回オーチャード定期演奏会

9月19日(月・祝) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ

(東京フィル首席指揮者)



アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文

リスト(バッティストーニ編)／

『巡礼の年』第2年「イタリア」より ダンテを読んで
マーラー／交響曲第5番

首席指揮者アンドレア・バッティストーニのメッセージはこちらから
(Youtube)



10月の定期演奏会

第976回サントリー定期シリーズ

10月20日(木) 19:00 サントリーホール 大ホール

第150回東京オペラシティ定期シリーズ

10月21日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第977回オーチャード定期演奏会

10月23日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：チョン・ミョンフン(東京フィル名誉音楽監督)

ファルスタッフ(バリトン)：セバスティアン・カターナ

フォード(バリトン)：須藤慎吾

アリーチェ(ソプラノ)：砂川涼子

フェントン(テノール)：小堀勇介

ナンネッタ(ソプラノ)：三宅理恵

カイウス(テノール)：清水徹太郎

クイックリー(メゾ・ソプラノ)：中島郁子

バルドルフォ(テノール)：大槻孝志

メグ(メゾ・ソプラノ)：向野由美子

ビストラ(バス)：加藤宏隆

合唱：新国立劇場合唱団



チョン・ミョンフン ©上野隆文

ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』(演奏会形式)

公演時間：約2時間30分(休憩を含む)

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



9月の定期演奏会は首席指揮者バッティストーニが登場。今年、日本デビューから10年目を迎えたマエストロが今季の東京フィルとの定期で披露するのは、待望のマーラー「交響曲第5番」と自身のオーケストラ編曲によるリストのピアノ曲『巡礼の年』第2年「イタリア」より“ダンテを読んで”。マエストロの故郷イタリアの文豪ダンテをモチーフにリストが書いたピアノ作品「ダンテを読んで」について、マエストロはどんなイメージを描いたのでしょうか？ プログラムによせてエッセイを執筆いただきました。

リストのピアノ音楽をよく知る者にとって、ハンガリー出身のこの作曲家が、珍しい響き、今までにない音色、オーケストラのプロットを鍵盤楽器で模倣する書法を追い求めたことは有名である。

「ダンテ・ソナタ」とも呼ばれるこの曲に魅せられた私はそれゆえに、管弦楽版を書くにあたって、これらの特徴を明確に示そうと決めた。この編曲は、1950年代ごろまで大いに流行していた器楽編曲の例に連なるものとなる。すなわち目標とするところは、リストや彼の同時代人のスタイルによるオーケストレーションではなく、ラヴェル、レスピーギ、ストコフスキーなどの先例に多くを負っている、大オーケストラのための自由な編曲なのだ。

だがあらゆる編曲は、その性質上、敬意を示す行為であると同時に裏切りでもある。

リストによる速度記号と表現記号は全てそのまま残したが、それは作曲者の意図に敬意を表するためであり、この翻案の出来得るかぎりの完全なヴィジョンを提供するためだ。一方、メトロノームの指示は筆者のものであり、この作品の管弦楽版の演奏により適していると判断した内容になっている。

リストのピアノズムを交響楽の語彙に編曲するための音色の調合についても同様である。文献学、書かれた記号、そして原典への忠実さを非常に重視している今日の音楽界において、この作品が国語純化論者たちの気分をあまり損なうことなく、過去の偉大なる作曲家への心からの捧げものとして居場所を見つけられるよう願っている。



1858年頃の
フランツ・リスト

リスト自身も、他の作曲家たちの音楽の編曲とパラフレーズを数多く手がけており、その中で、原作品への賛美と自身の解釈を組み合わせ、元の作品の魅力を再創造したという事実は、私を励ましてくれる。私を非常に惹きつけるのはやはり、このピアノの幻想曲の、神秘的で同時に苦しみをたたえた雰囲気であり、リストの天使的かつ悪魔的な音楽を見事に特徴づける、瞑想とヴィルトゥオジティの二項式なのである。リストがこの作品を作曲するにあたり、ダンテ『神曲』の中のどの〈歌〉にインスピレーションを受けたのかは定かではないが、恐ろしい音の波間に地獄の炎を、もしくは、中間部のカンタービレに不幸な恋人たちパオロとフランチェスカの物語を見出すことは難しくない。

冒頭の威嚇的なモットーは、こう歌っているかのようだ。「ここに入る者は、いかなる希望も捨てよ」、これは地獄の門の上に記された銘である。

ここから、オーケストラの深淵へ、もしくは、ダンテが地獄篇で描写した〈環〉の深みへ、蛇のとぐろのように曲がりくねった半音階主義の螺旋を辿る暗い下降が我々を待っている。

リストの特徴は、すでに言及したように、聖と俗の両方を備えていることだ。天使的なコラルに伴うトレモロから、天国の気配を感じるのはたやすいし、今述べた地獄への下降を対位法で彩るカンカンに似た舞曲からは、硫黄の悪臭が感じ取れる。だが私は、悪の深淵へのダンテの旅の終わりと、天の高みへ、そしてより良き世界の希望へと至る道行を、高らかな鐘の音と共に告

げるフィナーレがとても気に入っているのだ。

『巡礼の年』とは ハンガリーの作曲家で「ピアノの魔術師」と称されたフランツ・リストのピアノ独奏曲集。「巡礼の年報」とも。「第1年：スイス」「第2年：イタリア」「ヴェネツィアとナポリ」「第3年」の4集からなる

公演情報は21ページをご参照ください。

2年ぶりのオペラ演奏会形式! マエストロ チョン・ミョンフン指揮

ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』の物語

舞台は英国ヘンリー四世の御代、ウィンザーのとある街。

主人公の老騎士サー・ジョン・ファルスタッフは

若い時から強欲で女が好きで大酒飲み、
彼の行く場所には騒動が絶えません。

ある日、ファルスタッフは酒を飲みながら考えます。

「二人のご婦人に同じ内容のラブレターを送って、
恋の冒険を楽しんだ末にその財産を頂戴してやろう」…

ファルスタッフのあざれた野心を手伝う羽目になった従者たちと、
偽の恋文を受け取った二人の婦人とその友人たちが巻き起こすひと騒動。

最後には皆大笑いで大団円を迎えます。

皆からこてんぱんに貶されても自信たっぷりのファルスタッフと、
全員で「最後に笑う者が本当に笑う」と高らかに歌い上げるラストシーンは
私たちに豊かな人生とは何かを教えてくれるようです。





©上野隆文

東京フィル名誉音楽監督
マエストロ チョン・ミョンフンが語る
『ファルスタッフ』

「この作品は喜劇です。今回は演奏会形式の上演ですが、喜劇としてお客様に笑っていただける要素を随所に盛り込んで舞台を作りたいと考えています。

たとえば…“太鼓腹”と描写される騎士ファルスタッフの体格や衣裳、物語で重要な小道具となる2通のラブレターやファルスタッフが隠れる洗濯籠、酒びん、鹿のツノなど……。それぞれの人物についての視覚的なイメージも重要です。多くの登場人物が現れるこの作品で、私も舞台の上で何かするかもしれません。『ファルスタッフ』は他のヴェルディ作品と比べれば有名なアリアはほとんどありませんが、それ故に難しく、喜劇と言っても侮ってはならない、とても高尚な作品なのです」



マエストロ チョン・ミョンフンと東京フィルは2022年5月定期演奏会でも共演。3公演で長く大きなカーテンコールが生まれました ©上野隆文

名誉音楽監督 マエストロ チョン・ミョンフンに イタリア共和国功績勲章グランドオフィサー授与

6月1日、イタリア共和国建国76周年の記念式典に際し、ローマのクイリナーレ宮殿でフェニーチェ歌劇場管を指揮したマエストロ チョン・ミョンフンに、共和国大統領セルジョ・マッテレッタ氏よりイタリア共和国功績勲章であるグランドオフィサー (Grande Ufficiale dell'Ordine al Merito della Repubblica Italiana) の称号が贈られました。

マエストロ チョン・ミョンフンは2001年より20年以上にわたり東京フィルのスペシャル・アーティスト・アドバイザーや名誉音楽監督などのポストにあり、長年の協働関係のもと、国内外で数々の名演をお届けしてまいりました。このたびのマエストロの受勲を、楽団一同心からお祝い申し上げます。



イタリア共和国大統領より、マエストロへ功績勲章グランドオフィサーの贈呈 ©Presidente della Repubblica

【特別演奏会】ユニセフ親善大使・黒柳徹子の 「ハートフルコンサート2022」好評発売中!

日時 2022年8月15日(月)14時開演
会場 東京芸術劇場コンサートホール
出演 お話・語り: 黒柳徹子 ヴァイオリン: 前橋汀子*
 指揮: 角田鋼亮
曲目 ベートーヴェン／
 ヴァイオリンと管弦楽のためのロマンス第2番*
 サラサーテ／ツイゴイネルワイゼン*
 小森昭宏／音楽物語『窓ぎわのトットちゃん』
 [語り・原作:黒柳徹子 構成:黒柳徹子・飯沢 匡] ほか
料金 S席¥6,200 A席¥5,100円 B席¥4,100
 C席¥3,600 車いす席¥3,100
問合せ 東京フィルチケットサービス 03-5353-9522
 (10時～18時／土日祝休)
 東京フィルWEBチケットサービス
<https://www.tpo.or.jp/>



オーケストラ・キャラバン ～オーケストラと心に響くひとときを～ 飛騨市特別公演 飛騨市文化交流センター開館15周年記念



～オーケストラと心に響くひとときを～

日時 7月18日(月・祝)14:30開演

会場 飛騨市文化交流センター

スピリットガーデンホール

出演 指揮: 円光寺雅彦

チェロ: 山崎伸子*

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

曲目 モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲

J. シュトラウスⅡ／ワルツ『美しく青きドナウ』

チャイコフスキー／ロココの主題による変奏曲*

ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』

料金 S席¥4,000 A席¥3,000 学生券¥1,000 (高校生以下)

問合せ 飛騨市文化交流センター 0577-73-0180 (9:00～20:00／月・祝翌日休)

ほか／<https://www.kouryu-c.com/>

ようこそ&ありがとう

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けております。ここでは6月の定期演奏会に来場されたJICA東京国際センター研修生の皆様からの感想を一部、ご紹介します。



ありがとうございました! このような熟練したミュージシャンシップを2時間目撃できてとても光栄でした! 東京フィルがシCHEDリンの『カルメン組曲』、チャイコフスキーの『白鳥の湖』を演奏するのを見、聴き、感じて、感動せずにはいられませんでした。(パラオ共和国より、42歳男性)

このような素晴らしい機会を提供していただき、ありがとうございます。東京フィルハーモニー交響楽団は、世界最高のフィルハーモニー交響楽団の1つです。私はこの世界クラスの経験をすることができ、最も幸運な人間です。(タイ王国より、28歳男性)

2022シーズン

午後のコンサート。大好評発売中!



2022シーズンの「午後のコンサート」、開幕いたしました。ゆったりとした午後のひとときを、オーケストラの名曲と幅広い世代の音楽家のお話で愉しむ「午後のコンサート」。7～9月公演の1回券発売中! 良いお席はお早めに! ひきつづきお楽しみください。

“大人の渋谷”、Bunkamuraで愉しむ
渋谷の午後のコンサート

Bunkamura オーチャードホール
開演14:00 (開場13:15)

7月27日(水) 第14回

指揮とお話: 三ツ橋敬子
バンドネオン: 小松亮太*



夏を踊る

1回券発売中!

ガーデ/ジェラシー*
ピアノラ/アディオス・ノニーノ*、リベルタンゴ*
小松亮太/新作初演*
ビゼー/歌劇『カルメン』第1組曲
ファリャ/バレエ音楽『三角帽子』より

9月2日(金) 第15回

指揮とお話: 小林研一郎
ヴァイオリン: 荒井里桜*



コパケンの名曲アラカルト

1回券発売中!

グリンカ/歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲
メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲*
ドヴォルザーク/スラブ舞曲第10番
スメタナ/連作交響詩『わが祖国』より
「シャルカ」「モルダウ」

11月24日(木) 第16回

指揮とお話: 大井剛史
ソプラノ: 森麻季*



クリスタル・クラシック

1回券8月発売

ドヴォルザーク/序曲『謝肉祭』
わが母の教えたまいし歌*
山田耕筈/赤とんぼ* この道*
プッチーニ/歌劇『ラ・ボエーム』より
「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク/交響曲第8番

ほか

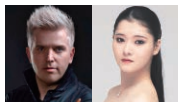
photo 三ツ橋敬子©Earl Ross./小松亮太©Yusuke Takamura./小林研一郎©山本善子/荒井里桜©Toyohiro Matsushima./大井剛史©K. Miura./森麻季©Yuji Hori

ゆったりと、平日午後に“音楽のご褒美” 平日の午後のコンサート

東京オペラシティ コンサートホール
開演14:00 (開場13:15)

8月5日(金) 第27回

指揮とお話：
ダン・エッティンガー
ヴァイオリン：服部百音*



10月31日(月) 第28回

指揮とお話：円光寺雅彦
ピアノ：清塚信也*



千夜一夜物語

1回券発売中!

ワーグナー／楽劇『ニュルンベルクのマイスター
ジンガー』より第1幕への前奏曲
ワックスマン／カルメン・ファンタジー*
リムスキー=コルサコフ／交響組曲『シェエラザード』

オーケストラ・クライマックス ～ピアノ協奏曲編～

1回券8月発売

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番より第1楽章*
ショパン／ピアノ協奏曲第1番より第2楽章*
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番より第3楽章*
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲『展覧会の絵』ほか

愛され続けて23年目。午後コンの“元祖” 休日の午後のコンサート

東京オペラシティ コンサートホール
開演14:00 (開場13:15)

7月24日(日) 第93回

指揮とお話：三ツ橋敬子
バンドネオン：小松亮太*



夏を踊る

1回券発売中!

ガーデ／ジェラシー*
ピアソラ／アディオス・ノニーノ*、リベルタンゴ*
小松亮太／新作初演*
ビゼー／歌劇『カルメン』第1組曲
ファリャ／バレエ音楽『三角帽子』より

9月4日(日) 第94回

指揮とお話：小林研一郎
ヴァイオリン：荒井里桜*



コパケンの名曲アラカルト

1回券発売中!

グリーンカ／歌劇『ルスランとリユドミラ』序曲
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲*
ドヴォルザーク／スラブ舞曲第10番
スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より
「シャルカ」「モルダウ」

11月27日(日) 第95回

指揮とお話：大井剛史
ソプラノ：森麻季*



クリスタル・クラシック

1回券8月発売

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』
わが母の教えたまひし歌*
山田耕柞／赤とんぼ* この道*
プッチーニ／歌劇『ラ・ボエーム』より「私が街を歩けば」*
ドヴォルザーク／交響曲第8番 ほか

料金表	S席	A席	B席	C席
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※東京フィルフレンズ(年会費
無料・随時入会受付中)入会
で、定価の10%割引で購入
いただけます。

photo: 小林研一郎©上野隆文 / 三ツ橋敬子©Earl Ross / 小松亮太©Yusuke Takamura / ダンエッティンガー©Juergen Altmann
服部百音©Yuji Inagaki / 荒井里桜©Toyohiro Matsushima / 円光寺雅彦・大井剛史©K. Miura / 清塚信也©Kunito Watanabe / 森麻季©Yuji Hori

お申込み・お問合せは
東京フィル
チケットサービスまで

03-5353-9522 (10時～18時/土日祝休・チケット発売日の土曜日は10時～16時の営業)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

Photo Reports 2022年6月の演奏会より

6月定期演奏会には特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフが今年2回目の登場。今年、生誕90年を迎える作曲家シCHEDリンのバレエ音楽『カルメン組曲』とチャイコフスキーのバレエ音楽『白鳥の湖』（プレトニョフによる特別編集版）をお届けしました。バレエ大国ロシアで生まれた2つの作品がマエストロ・プレトニョフの魔法のようなタクトで紡がれ、美しく踊るダンサーの姿や物語がありありと浮かぶ演奏には3公演とも大きな感動の拍手が沸き起こりました。

写真=藤本崇(6/8)・三浦興一(6/12)

6月定期演奏会(6/8、9、12)

指揮：ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)

コンサートマスター：依田真宣

シCHEDリン／カルメン組曲(G.ビゼーによる)〈シCHEDリン生誕90年〉

チャイコフスキー／『白鳥の湖』より(プレトニョフによる特別編集)



今年12月に生誕90年を迎えるシCHEDリンの「カルメン組曲」は、ビゼーの歌劇『カルメン』を下地に作曲されたバレエ音楽。弦楽5部・ティンパニと4人の打楽器奏者という珍しい編成で、鋭角的かつ色鮮やかな音楽が生み出されました



コンサートマスターは依田真宣。マエストロの世界観や音楽的なスパイスを“魔法”と語ります。『白鳥の湖』での美しいヴァイオリン・ソロが注目を集めました



チューブラーベル(鐘)の音で幻想的に奏でられるカルメンの「ハバネラ」を皮切りに、弦楽器と多種多様な打楽器の音色で『カルメン』の悲劇的なドラマが描かれます



プレトニョフ自身の編纂によるチャイコフスキー『白鳥の湖』では、バレエ作品本来の物語に沿ってドラマティックな音楽を展開。演奏中に見せる様々な表情やきめ細かな動きも、聴くものを惹きつけます



最終日、オーチャード定期演奏会(6/12)のカーテンコールで笑顔を見せたマエストロ。どの公演でも大きな拍手をいただきました

第26回平日の午後のコンサート(6/23)

〈マエストロの旅〉

指揮とお話：チョン・ミン
(アソシエイト・コンダクター)

MC：綿谷エリナ

コンサートマスター：三浦章宏

ベルリオーズ／ローマの謝肉祭

ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲

ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より

「モルダウ」

ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』

(1919年版)

私のささやかな オーケストラ体験

演劇集団 円 演出家

こもりみみ
小森美巳



小森昭宏・美巳ご夫妻

東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第11回は、NHK子ども番組「おかあさんといっしょ」放送開始時のプロデューサーはじめ長く演出家として活動されてきた個人賛助会員の小森美巳様。作曲家で東京フィルの理事でもあり2016年に逝去された故・小森昭宏氏の夫人であり、東京フィル副理事長の黒柳徹子とも長く交流があるそうです。

小学校1年生になった頃、同級生のお父さんがオーケストラでティンパニを叩いていたので、度々演奏会に連れていってもらった。聴くというより観ることが楽しい時代だった。その後私は父の転勤であちこち引越。最後は朝鮮(今の韓国)の大邱(テグ)に暮して約2年、終戦による引き揚げで、ようやく東京に帰り着いた時には中学生になっていた。

“欲しがりません勝つまでは!”の時間を経て、焼野原からすべてが立ち上った、追いつけ追い越せの時代、あらゆる意味で文化的には貧しかったと思う。演劇漬けの学生時代を終え、放送の仕事に就いてからは、様々な音楽に出会い、たくさんの歌やドラマを創ったが、オーケストラコンサートからは遠かった。

あの同級生の兄貴と結婚して、ティンパニのお父さん(小森宗太郎)は義理の父になった。相手が作曲家だったので一緒に行くようになったオーケストラの世界は、洗練されていて、いささか敷居が高かったが、ようやく参加できた感があった。

小森はチョン・ミョンフン指揮のマーラー曲がご最良だったが、私はドラマティックなものが好きで、ここ数年間のベストワンは2016年7月の『蝶々夫人』だ。韓国のソプラノ、ヴィットリア・イエオさんの主演。この日

は演奏会形式で字幕付き、下手側に小さい舞台が作られていた。終幕、蝶々さんがたったひとつの衣裳である打ち掛姿で、怒り、悲しみを演じ、この日は登場していない我が子を抱きしめるように歌うクライマックスに胸を打たれた。指揮者の全体を包み込むような余裕と、歌い手とのアンサンブルの良さは格別で、客席の1人として大感動だった。

主人亡きあと、初めて1人で聴いたコンサートでもあった。

このひと月前、長岡での東京フィルコンサートは音楽物語『窓ぎわのトットちゃん』だった。当日、作者で語り手の黒柳さんから、作曲者小森の携帯にメールがあった。「一緒に来られなくて残念、でも数え切れない程のアンコールで本当に大盛会だったことお知らせします」と。

ほんの少しの時間差で本人はこのメールを見ることが叶わなかった。

音楽物語『窓ぎわのトットちゃん』は、ベストセラーになった黒柳さんの自伝をそのままに作曲されていて、全編に徹子さんの現在につながる人生のエッセンスが溢れている。又、同じ時代を生きた作曲者の感情や思想も重なっている。

そして私にとっては、最も身近かで大切なオーケストラ曲となった。

こどもが成長する時、戦争の体験がどんなものであったかを、この物語は音楽の力と共に強く感じさせてくれると思う。

今年8月15日のハートフルコンサートで、トットちゃんの黒柳さんは、きっと“平和”の話をされるだろう。コロナに加えて毎日の戦争のニュース、溜息が止まらないこの頃だが、音楽の力で、先ず人間の心の中から平和になりますようにと、祈らずにはられない。

小森美巳（こもり・みみ）／1933年東京生まれ。1955年日本女子大学文学部卒。NHK入局、主としてTV「おかあさんといっしょ」ブーフーウー・おはなしの森「うたのえほん」等担当。1970年NHK退職、1980年から岸田今日子企画、演劇集団円・こどもステージに谷川俊太郎氏と共に参加、演出を担当。音楽に小森昭宏を加え、現在に至る。小森昭宏との仕事として、川本喜八郎の人形劇「三国志」、日生オペラシリーズ 能・狂言の現代語訳「羽衣」「くさびら」「うつぼ猿」、音楽物語「大砲の中のアヒル」「にじ色のしまうま」「スイミー」、音楽劇「まどさんのまど」「どうぞのいす」、コンサート「まどみちおの世界」「真理ヨシコ コンサート」「小森昭宏 コンサート」。現在、演劇集団円・演出部所属。演出家。2022年「小森昭宏作品集」を出版。2022年夏、岸田今日子企画 円・こどもステージNo.40「キレイちゃんとけだもの」を演出予定。

<http://www.en21.co.jp/index.html>



1982年、音楽物語『窓ぎわのトットちゃん』初演時の舞台より

いよいよ夏本番を迎え、

皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

今月は、ソリストを迎え、躍動感あふれる演奏を皆さまにお届けいたします。

軽やかでありながらダイナミックな演奏をお楽しみください。

引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	コスモエネルギーホールディングス(株) 代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

■ インテルメッツォ

青木 智宏	織田 俊男	齊藤 すみ江	西田 浩子	守井 恒弘	maru
池田 憲一	柿田 浩之	佐々木 三春	根本 直之	山崎 京子	MM
石井 賢治	加藤 頼宣	佐藤 博	橋本 龍太郎	山崎 祐宏	M. M.
石澤 卓志	金澤 聡	清水 敬一	長谷川 健夫	山下 雄造	M. M.
今西 誓子	金子 徹	清水 正子	服部 一成	山中 喜義	M. TE
今西 宏明	衣笠 由美	春原 理恵	原 真佐夫	吉永 太郎	N. M.
宇賀神 裕子	木村 和仁	滝田 二良	土方 文夫	渡辺 敦郎	T&M.K.
白居 正昭	木村 光子	瀧本 義継	蛭海 進	H. A.	T. Takahashi
薄羽 豊典	金原 明紀	轟 幸夫	福田 亜紀	hal2001	Y. M.
江口 麗子	久保田 穰	董 菁	福永 千鶴子	H. I.	Y. S.
江黒 俊弘	河野 太	永井 洋一	古川 年彦	H.Taniguchi	Yu. K
大石 有紀子	肥田 憲勇	仲川 信正	松田 兼太郎	J. Y.	
大河内 昭子	小木曾 孝	中嶋 さゑ	三浦 幸雄	Katsumi	
大越 健一	越川 敏	奈良 和彦	水澤 莞治	Ishizaki	
岡田 君代	御所窪 和子	新村 節	三宅 成子	K. H.	
奥瀬 篤	齊藤 淳三	西 秋男	村井 啓祐	K. Kojima	

■ プレリユード

秋田 将行	小畑 嘉丈	近藤 弘明	富岡 恵子	森本 雅之	Judy&Peter
浅岡 栄	大堀 慶裕	齊藤 充	永澤 淳美	矢崎 恵美	Weinreb
浅羽 亮一	大村 道生	齋藤 雄史	中島 兵	安川 武年	Kaori. K
安達 信樹	小川 知子	佐々木 伸行	中島 智子	安永 和弘	K. Minami
甘利 尚人	奥田 みゆき	佐藤 邦康	名雪 豊一	柳瀬 仁茂	k. u.
新井 克巳	方波見 和雄	佐藤 啓瑛	名雪 久子	山岸 勇一郎	Masa K
新井 三喜男	加藤 勇三	史 擁軍	成澤 徹	山口 裕正	MH
池田 直宏	亀子 由恵	志賀 俊孝	西浦 政秀	山崎 剛太郎	M. S.
石井 幸一	川上 千恵子	白井 昭男	西田 稚啓	山崎 良雅	Naok Ito
石山 憲司	川上 善行	新藤 ひろみ	長谷川 育枝	山之内 英明	Natsuko F.
泉 美貴	神田 真也	菅 真智子	畠山 大	山森 伸子	N. K.
糸嶺 篤朋	神田 敏宏	杉山 桃世	八馬 しげ子	湯浅 英之	S. A.
稲垣 千春	菊池 潤子	鈴木 忠明	早川 恵子	雪平 円	S. Fukai
今西 敦樹	日下 隼人	鈴木 雄二	林 孝夫	云 毅	S. M.
今西 知篤	日下 美恵子	住友 亮一	春山 典応	吉田 英一	S. S.
居山 由彦	久保田 尚武	相馬 博	樋口 順子	吉峯 裕毅	T. SAITO
岩瀬 順子	窪田 正樹	高倉 淳	福澤 浩行	吉村 君子	T. T
インディチャンプ	熊谷 佳代	高橋 美穂	星 直樹	吉村 真人	T. W.
魚住 桂	古賀 容子	高築 良一	星野 三枝子	Daichi	Y. 田村
梅津 俊雄	後藤 研也	高橋 良平	堀 哲也	Hisatsune	Y. A.
江間 直樹	小西 祐一	竹内 まゆみ	松田 茂敬	E. Kondo	Y. N.
大川 達也	小林 洋	田中 眞知子	三船 麻理	G. S.	Y. SANO
太田 博	小林 裕子	手塚 勝美	百瀬 毅	J. I.	Y. Y.

ご支援の御礼とお願い

コロナ禍において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、深刻な打撃を受けています。2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止を余儀なくされております。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィル 賛助会 会員募集中

2022年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立111年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、東京フィルは社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動が続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
パートナー会員	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリュード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた}・鹿丈)

電話: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

令和4年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催します。

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時/土日祝休)

6月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。
心より御礼申し上げます。

佐々木 寿美子、菅田 克彦 ほかに匿名希望5名

(五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンラインワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部
電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和土
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴァイオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroschi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	平田 慎 Shin Hirata	
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	吉江 賢太郎 Kentaro Yoshie	稲岡 宏司 Hiroschi Inaoka
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda		大田 淳志 Atsushi Ota
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	テューバ Tubas	古谷 寛 Hiroschi Furuya
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		黒尾 文恵 Fumie Kuroo		荻野 晋 Shin Ogino	
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets		
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda		川田 修一◎ Shuichi Kawata	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下弘 桐子 Kiriko Shimobara	井村 裕美 Hiromi Imura	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆ファオアシューラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バティストニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2022, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 111th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉2022(令和4)年7月7日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、サーモグラフィカメラ等での検温を行っています



密集を避けるため、時間差による入退場のご協力をお願いする場合がございます

ご来場者様の中から感染者が発生した場合には、保健所等の公的機関と連携の上、ご購入の際に取得した購入者情報を緊急連絡先として使用させていただく場合がございます。チケットご購入者のご来場者が異なり、購入者情報を緊急連絡先として望まない場合は、必ずチケット半券裏面の余白にご来場者様のお名前と緊急連絡先(電話番号など)のご記入をお願いいたします。



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っています。

客席内は十分な換気を行っています。

時差入退場にご協力ください。



TOKYO PHILHARMONIC ORCHESTRA

SEASON 2022